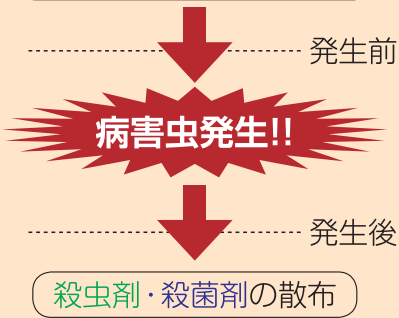




6月は農薬の使用量が最も多い時期であり、農薬使用時の事故が多く発生しています。農薬を使用する前には、ラベルをよく読んで正しく安全に使用しましょう。

農薬散布のタイミング

殺菌剤の散布(予防散布)



「毎年この時期に使っているから」という理由で農薬を散布していませんか？農薬散布にも効果的なタイミング(使用適期)があります。

・病気は予防が基本

病気が全面に広がってからでは、農薬を散布しても防ぐのは難しいです。発生初期までに、ほ場全面に丁寧に散布しましょう。

・害虫は発生を認めたら部分散布

害虫の発生はほ場の一部から増え始めることが多く、発生初期の部分散布が基本になります。発生が多い場合は全面に散布しましょう。

農薬散布時の服装

1. 帽子とゴーグルの着用

農薬は頭上に向けて散布することもあるので、頭や顔にかからないように帽子とゴーグルを着用しましょう。

2. 適切なマスクを選ぶ

農薬を吸い込まないためにもマスクは必ず使用しましょう。使用するマスクの種類が指定されている場合は、それに従ってください。

3. 長袖・長ズボンの着用

農薬が皮膚にかからないように、できるだけ肌の露出が少ない服装にしましょう。

4. ゴム手袋や長靴の使用

農薬がかかると皮膚がかぶれたり、中毒を起こすことがあります。農薬が染み込みにくいゴム手袋や長靴を使用しましょう。

◆ここもチェック◆

周辺の農作物に農薬が飛散しにくいドリフト低減ノズルで農薬飛散を防止しましょう。



写真は奈良県農業総合センターより引用

生産履歴(防除履歴)を記帳しましょう

「大阪都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」(H19年10月25日公布)で生産履歴の記帳の記録と保存が「努力義務」として定められました。生産履歴を残すことで生産者自らが再確認でき、農薬の誤使用を防ぐことができます。また、朝市や直売所に農産物を出荷するには、生産履歴の提出が必要になる場合があります。



土の健康診断をしてみませんか。

J A大阪北部では8月に土壌分析を行います。土壌分析は、土の健康診断です。良い作物を作るためには肥料のやりすぎや無駄を見直さなければなりません。ぜひ一度、J A大阪北部による土壌分析を行ってみてください。

対象者：組合員 分析費用：無料

結果報告：8月下旬頃

詳しくは各センター・支店購買店舗までご確認願います。